

松島町教育委員議事録（7月臨時会）

1 招集月日 平成28年7月7日（木曜日）

2 招集場所 松島町役場庁舎 教育長室

3 出席者 小池満教育長、平秀毅委員（教育長職務代理者）、早川成美委員、
瀬野尾千恵委員、赤間里香委員

4 説明のため出席した者

櫻井光之教育次長、本間澄江教育課長、赤間香澄学校教育班長、石川祐吾生涯学習班長兼勤労青少年ホーム所長、佐々木弘子中央公民館長兼文化観光交流館長、鷹平義弘学校給食センター所長、千葉知道スポーツ振興センター所長兼B&G海洋センター所長、若松義典学校教育班主査

5 議事日程

1. 開会 平成28年7月7日（木曜日）午前10時30分 開会

2. 議事録の署名委員の指名

3. 議事

議案第1号 平成28年度 松島町教育委員会教育行政点検評価報告書について

6 議 事 録

1. 開会 午前10時30分

〔小池教育長〕教育行政点検評価の報告についてご意見を頂戴すべく、臨時会を開会したいと思います。

中身が膨大ですので、時間を有効に使っていききたいと思います。報告の仕方はできるだけ簡潔に各担当課からさせたいと思いますけれども、足りない点についてはご指摘ないしはご質問をいただくというような形でよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

2. 議事録署名委員の指名

小池教育長及び平教育長職務代理者を指名

3. 議事

〔本間課長〕議案第1号 平成28年度松島町教育委員会教育行政点検評価報告書について、このことについて別紙のとおり提出する。平成28年7月7日提出。松島町教育委員会。

〔櫻井次長〕それでは、3ページをお開きいただきたいと思います。

まず、今回のこの点検評価の今後のスケジュールを先にお話ししておきたいと思います。今日の臨時教育委員会議で委員の皆様方からご意見をいただきまして、それを修正部分があれば修正をし、次回の教育委員会のときに修正版としてお配りしたいと思います。

それで、議会のほうに対する報告に関しましては、9月の定例議会の最終日に各議員にこれを提出したいと思いますので、その流れでお願いしたいと思います。

まず、この点につきまして、教育長、委員の皆様方、よろしいかご採決をお願いいたします。

〔小池教育長〕今、今後の日程について次長より説明がありました。このやり方でよろしいかどうか、日程にご異論はないかどうかお伺ひしたいと思います。いかがですか。原案どおりでよろしいですね。（「はい」の声あり）よろしくお願ひします。

〔櫻井次長〕それでは3ページをお開きいただいて、第1章教育委員会議から説明に入りますので、それぞれ担当ごとに説明いたします。基本施策の2、学校教育の充実が終わった段階で、一旦休憩をとりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、教育委員会議、第1章の部分につきまして、本間課長から説明させます。よろしくお願ひします。

〔本間課長〕資料に基づき、教育委員会議について説明

〔赤間班長〕資料に基づき、学校教育班所管分について説明

〔小池教育長〕資料に基づき、基本施策等について説明

〔赤間班長〕資料に基づき、小学校及び中学校について説明

〔鷹平所長〕資料に基づき、学校給食センター分について説明

（質疑）

小池教育長	特に確認をしたいところ等ありましたらお願いします。いかがでしょうか。
平委員	最初に、この中身は27年度対象ということなので、教育大綱にははじめのところで触れる必要は、28年度から触れることになりますか。あとは、字句もよろしいのでしょうか。
小池教育長	教育大綱はそのとおり28年度からです。字句についてはよろしくお願ひします。
平委員	気づいたところは、まず最初です。12ページでスポーツをとおした心と体の健康というのがありますね。ここで「高齢者向けスポーツ教室の検討及び実施」となっているのですが、これらの作成の仕方です。検討という言葉は余り使わないで、例えば「スポーツ教室の開催及び充実」とか、検討という言葉を使うのはいかがなものかと。何か非常に後ろ向き。ざっと読むとそんなところがちょっと気づいたのですけれども。そんな意見でもよろしいのでしょうか。
	では、次。あと15ページ、幼稚園のところでは事業の実施状況と事業の効果で、親子ふれあいコンサートというのが出てくるのですが、これはダブっているのかなと。親子ふれあいコンサート、親子遠足の実施、あと町内が親子ふれあいコンサートを実施したと二重に書かれているような気がするのですが、これは1つにまとまってもいいのかなと。違うものなのでしたら。
櫻井次長	ちょっと確認します。
小池教育長	今のところで、「講和」という字があるのだけれども、戦争の「和」を使っていいのか。2番目。「話」という字だね。

それで、去年私が言ったのは、各学校で学校評価を行うのですけれども、特に27年度は教育長通達事項という5項目が出ているのに、そのことに対する点検評価が、せめてこの5つに関してだけでも各学校はどう取り組んでどうであったのかを共通したものとして出していただきたいと思うのです。そこら辺、各学校が年度末に学校評価を行った結果を教育委員会にも出していただいていますので、きちんと行い、保護者説明会も開いているようだなというあたりは、私としては評価しているのですが、ここに載せるときには、やはりある程度、この項目はどうかということをおる程度絞って出されると良いと思います。

例えば、五小が志教育のことに関しては、これからは指導案を書くときには、あの3つの柱に沿ったそこで何をすることを意識した指導案を書くべきではないかという反省、改善案を出しているのですが、肝心の中学校で志教育を余り大きく扱っていないのですよね。そこら辺の違和感がありました。

例えば幼児教育のところにおいて、何々を充実すると。例えば、事業の目的と概要、これは26年に出たものと比べ方が変わっていて、この書き方は非常に良いなと読んでいて、まず目的と概要があって、実施状況があって、効果があって、課題。この比べ方は改善されていて、とても読みやすくなってわかりやすいなと感じておりますが、この事業の目的と概要というところに、このような目的でこのようなことをしましたという意図で書いてありますが、充実とか、そのような言葉が多いのですが、具体的にどのような形を狙うという目指すべき姿をきちんと書いてくれないと、充実とは何をすることが充実なのかかわからないのですよね。ですから、その反省としても、何々を実施したと。例えば、13ページ、幼児教育の元気な体と心の育成の幼稚園の課題のところ、昨今の気象の上昇への対策など計画的に整備していく必要があると書いてありますが、これに関して、来年、全ての設置は無理だけれども、各園1室ずつでもエアコンをつけるだけの予算をとっていくつもりがあるのかとか、そこに書いてある改善策または検討事項が次へどう反映されるのか。場合によっては、来年は無理だけれども中長期計画、3年から5年間を見通して、5年間のうちに幼稚園にはエアコンを整備しようとか、そういうような見通しを、点検評価報告書を生かした中長期の見通しを立てていかないと、いつまでも同じ文面が繰り返されるということをおもいました。

そういう意味で私は読んで、五小の書き方、こういうことのためにこうしました、その結果こうでした、次年度はこうしたいということが比較的よくわかって、よかったなと思います。

一つ一つはこまごまと書いたのですが、全体としてそこら辺は今からこれを言葉として、何のためにこういうことをして、次年度は課題として今年はどうなったから来年はどうするみたいになるものかどうか。そこは非常に大きいことかなと思いました。以上です。

小池教育長

ありがとうございました。この意見については、そのとおりと感じますが、時間的なものもあり、次年度に向けて取り組む課題としてとりあげさせていただきます。スタッフも一生懸命やっていて、まず現場にこれを毎年そもそも理解させることから始まるのですね。それで、返ってきたのは、恐らく教頭が書くのだろうと思うのだけれども、転任してきたばかりの人で、よく意味を理解しているところまでいかなければやはり前年度のものを続けて同じ記述でやってくるというようなことですね。

だけれども、今意見があったように、そもそもどういう意味を持って、どういう形で記述してほしいのかということはおもう一度考え直さないといけないなというふうには私は思いましたけれども。

平委員

この前見せてもらいましたけれども、点検評価の書き方ということでこのように書きなさいと各学校に示しましたよね。では、そこに問題があるのですかね。あそこに、今瀬野尾委員が言ったような視点をもっと書き込めばいいのかな。

瀬野尾委員

書き方を出しましたか。

平委員

もう出したよね。点検評価。そして、資料はたしか、いただいたと思います。

瀬野尾委員

点検評価する項目についてですか。

平委員

別なものか。何だか、点検評価の評価書の書き方みたいなのを各学校に示しませんでしたか。

櫻井次長

一応、毎年1回、こういう内容で。この様式ですけれどもね。

瀬野尾委員

内容は出ますよね。

櫻井次長

記述していただいています。今、瀬野尾委員が一番言われたいこととして、前年度の課題が本

当に今年度、何をクリアできているのかどうかと。投資と効果が見えないよということを行っているのだろうと拝察しましたので、教育長と相談して校長会でしっかりその辺を検討したいと思います。表現方法として瀬野尾委員が言っていることは今の時代とっても必要なことだなというふうに認識しますので、各学校にそれを一回おろして、校長だけの考え方も吸い上げしながらこれを整理したいと思います。

例えば、一つはエアコン対策と先ほど瀬野尾委員から幼稚園のお話がありましたけれども、これは予算要求を伴うことなのでその後の対応は書けなかったのですけれども、これは28年度もやっています。

瀬野尾委員 つまり、ひとつひとつこれは改善をやりつつあるということですか。

櫻井次長 はい、しているのです。幼稚園がやるというのは、ここで言っているのは恐らく熱中症対策とか、外遊びのときとか、室内でやるときの体の健康対策ですね。それと、エアコン対策となると施設整備に入っていきますので、そうなるとうと教育委員会サイドかなというふうに思ったものですから、その辺の説明をむしろ我々が今日説明したときに、補足できちっと言って説明すればいいのかもしれないですね。

例えば、幼稚園教育のところでは、気温上昇についての記載ということではあるのですけれども、これについては今年度、第一幼稚園、第二幼稚園を整備していますと、発注は終わりましたということをお話、報告すれば、それがいいのだと思います。そういうところはうちのほうもちょっと足りなかったかなと思います。

ですから、その辺も含めて、まずはその様式の見直しから入らなければならないと思うのですね。それで、これをやはり行うべきかと思うのです。この報告をまとめてくれている各学校の考え方もきちっと整理しながら詰めていかなければならないと思いますので、今ここではすぐに回答できませんけれども、その方向で随時答えを今年度の定例教育委員会議の中で報告していきたいと思います。いついつの校長会でこういう話をして、こうでしたという報告をさせていただいていかがですか。

小池教育長 そうですね。前年度からの課題も明記しておく欄があれば、それに基づいてできると思うのね。

それともう一つ、このように網羅的に書いてくるのは現場なりの誠意だと思うのですよ。だけれどもさっき指摘があったように、多くても2つか3つに絞って、これについて、実施状況はこうであり、それから事業の効果としてはこうであり、そしてこれは今後の課題としてはこういうことがあるのだというように、余り網羅的に、言いたいことはわかるけれども、前年度の反省点を踏まえて今年度はどうであったかということ段階的にきちんとまとめるということがあって良いのかなと。

平委員 もしその辺を見直すのであれば、さっき瀬野尾委員も指摘しましたけれども、去年と同じ書き方をしているように見えますね。

瀬野尾委員 2年前と同じです。

平委員 それはチェックしてもらわないと。例えば、ウォーキングコースの設定とか、全部同じだよな。

瀬野尾委員 それも、そうですね。同じなのです。

櫻井次長 あと、もう一つ。仙台管内の教育委員会の点検評価は、ほぼこの様式です。それはやはり教育振興基本計画をそれぞれ定めていますけれども、それと比較した形で並行させて記載しているので、どうしてもパターンがこのパターンになってきているのだと思います。そこはうちの町ではうちの町の独自の考え方ということが良いのではないかということで今委員さんからいただきましたので、校長会ですぐに検討していきたいと思います。

小池教育長 早川委員、どうですか。

早川委員 瀬野尾委員の指摘とも関連するのですけれども、私は中学校を特に詳しく見ている中で、去年もおととしも実は感じていることなのだけれども、これは来年度に向けてということでの意見を申し上げたい。

例えば、25ページの先ほどの話と重複するのですけれども、やはり事業目的と概要が簡潔で良いのかもしれないけれども、これでは教育委員会の目標か、学習指導要領の目標なのかと。その次の例えば29ページも全く同じなのですよね。これはやはりその学校特有の具体的な目標、目的があって、その概要が記されるべきであると。

その下の今度は実施状況。例えば、2年総合的な学習の一環として、町内で職場体験学習を実

施したと。これでは何というのか、報告の概要もわからない。実施したということしかわからないのだよね。だから、例えば数値が必要なところは、例えば2日間にわたって実施したとか、終了後は報告会を実施して効果を上げたとか、そういう具体的な評価の書き方というのがあると思うのですよね。よくあるのですよ。「授業研究を実施した」とか。授業研究を年に1回実施したのか、年に10回実施したのか、そういうことも含めて数値が必要なところは数値を挙げれば、初めて見る議会の人とか町民の方は具体的に理解できるだろうと思いますので。

実は中学校は毎年、このように余りに簡潔過ぎるのですよね。そのことをぜひお願いしたい。

あと、何か小さい字句の問題がありましたけれども、私も今年は発見したので、26ページの指導方法の「法」。指導法の場合は法律の「法」を書くのですよね。目的と概要の上から3行目。

あとは、小学校から「応援旗を」贈られたと。応援旗が贈られたとなれば「応援旗が」のほうがいいのではないのかなと。そういう日本語の問題です。以上です。

櫻井次長

実はですね、早川委員が言われたことを去年、そのとおりに伝えました。ですが、またこのような形で来たので、今度は簡単に受理しないようにしたいというふうに思います。

それからあと、応援旗ですけれども、志教育の一環としてやっていることなので、その辺もう少し具体的に書かなければ小学校の子どもたちの気持ちが伝わっていないのではないかなというふうに感じられますので、再度そこは中学校長に話をしたいと思います。

早川委員

そういえば、卒業式前に小学校に行って歌唱指導したとあります。私は、校歌の指導だなというのは理解できるのですけれども、これだけの文章だと音楽の指導を小学校に行ってやったのかなと思いますよね。そのように手を抜いている部分があるなど。

瀬野尾委員

もう1つ、別件で。給食センターからの報告ですから30ページになるかと思うのですけれども、事業の効果の欄で上から2つ目のポチの「地場産品を多く活用し」という文章がありまして、このところに、その効果としては「生産された食材を使用することにより、食の大切さ、食材の安全性などが図られた」とありますが、地場産を使うことの効果というのは、その下に書いてある小学校において野菜生産者をやっぱりじかに自分たちの地域の方が作ってくれているのだという喜びのほうで、何か小学校等の給食では狙いとしては大きいように思いますので、この2つのポチを合わせてまとめていただいたほうが、地場産を使う効果がよくわかるように思いました。

あと、もう1つ。改善策のところ、食物アレルギー児童生徒へ対応についてというところは、同じように26年の報告も同じ文章で出ているものですから、ここは町として何か取り組んでいるのか、それともこれはどこまでも家庭のほうでやってもらうという気持ちでいるのか、そこら辺は一体どうなのかなという疑問を抱きますので、もし取り組むのでしたらどういう段階であるということぐらいはわかるように今後書いていただいたほうが、町としても前向きに取り組んでいるのだなということが伝わるとと思いますので、お願いいたします。

小池教育長

それでは、赤間委員いかがですか。

赤間委員

教育委員になりまして、初めてこの過程を拝見して、なりたてのときに去年の分を頂戴して、しっかり読んだつもりが、よく状況がわからないで見たので理解できなかったのです。今回、これを確認してくださいということで事前にいただいたものの、やはり今回の会議に参加させていただいて、これが作られるまでの流れだとかそういったところを確認して、初めてようやく理解ができたかなと思います。

正直言って、これだけぼんと渡されて見てくださと言われても、中身はやはり初めての人はわからないと思うのです。それぞれ学校別、それから管轄別ということでまとめていらっしゃるものが、正直言って小学校、中学校から出てきたものが、そのままこれは載っている状態なのではないでしょうか。それすらもわからない状態で見えたので、全体を読む中では、学校教育班の管轄でいくと小学校3つと中学校1つ、それから幼稚園ということで、横並びで見ても、正直言って、読み終わった後、わからないなど。この評価をしたことで結局何が言いたいのか。先ほど瀬野尾委員のご指摘もありましたけれども、評価して、それで終わってしまうというか、後に何も残らないのではないかなというのが正直なところ。学校現場はそのつもりで日々指導に当たられているということはないと思うのですけれども、やはりある程度その目標、目的があって、それに対して何を実施して、どんな効果が上がって、それで次への課題というようなものが、読んだ人にもわかるようなものにならなければ、恐らく議会の方に出したところでどのようにご判断、理解されるのかなというのもよくわからないです。

先ほど、委員方からご指摘があるとおり、やはり形式や書き方とか、そういったところの工夫もいまひとつという感じで考えていただいたほうが、正直言って普通の一般の町民の人が見てわかるでしょうかということも、結局町民に対して公表するようになるということもあるわけですよ。もう少しわかりやすくという部分が、明確にというのがあれば、もっといいものになってくるのかなと感じました。

櫻井次長
赤間委員

それと、各学校から上がってきたものはそのままあげるのですか。

すみません、多少チェックはしています。

チェックはされているのですね。やっぱり語句の統一。一番目についたのは、「取組」という言葉なのですが、振り仮名があったり、送り仮名があったりなかったりというような言葉がちょっと目につきました。

それから、書き方でいくと、目的のところ、先ほど充実、充実と瀬野尾委員がご指摘されていましたが、その「充実」「実施する」とか、そういった部分がいろいろまちまちなのです。そういったところの徹底もいただきたいというところは、ざっと見たところでは感じました。

それと、1カ所だけ。第五小学校のところだったのですが、24ページ。事業の効果のところの2つ目の森林体験学習のところなのですが、ここに宮城県森林組合という言葉が出ていますが、これは宮城中央森林組合だと思うので、そういったところはきちんとチェックをされた中で出していかないと、やっぱりこの森林組合の方がごらんになられたら何だろうという話にどうしてもなってしまうと思いますので、そういったところの配慮もぜひ事務局のほうでしてあげるといいかなということを感じました。

中身については、申しわけないのですが、来年もうちょっと頑張ります。

櫻井次長

ここまでに関しての細かな字句の訂正がもしあれば、それをちょっと後で終わってからいただければと思いますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

〔石川班長〕資料に基づき、生涯学習班分について説明

〔佐々木館長〕資料に基づき、所管施設分について説明

〔千葉所長〕資料に基づき、所管施設分について説明

(質疑)

小池教育長

今、生涯学習関係からお話がありました。これについて、委員の皆さんからご意見があれば頂戴します。構想等は先ほど十分議論をできたと思いますので、中身について何かご質問があれば。

早川委員

具体的で、わかりやすい書き方だと思いますね。各学校もこういうふうに。

瀬野尾委員

私もわかりやすかったと思います。

櫻井次長

1つだけ。やはり先ほど赤間委員とか瀬野尾委員、それからあと平委員からもあったのですが、やっぱり書き方の統一性というのですか、黒ポチでいくのか、①なら①で全部統一した表記をするのか、まずそこは教育委員会事務局サイドも整理したいと思います。それは今年度の点検評価には採用できるので、その辺はしっかりしたいと思います。

あとは、先ほど話があった前年度の課題、これにも考えるような方向を取り組んでいきたいと思っています。よろしいでしょうか。

瀬野尾委員

今のお話は、そのようにぜひお願ひしたいということで。

スポーツ振興センターの2) 体力づくりの推進のところ、46ページです。そのところを少し読んだときに、今の事業目的と概要のところを書いてある丸ポチ2つ目、「スポーツにかかわる関係者や関係団体」というところと、その下を書いてある実施状況のところの丸ポチのところ。「町内の総合型地域スポーツクラブにより」というこのあたりの関係づけが私はわからなくて、やっぱり一つ一つ「幼児教育から体力向上の基礎を培うために」という最初の丸ポチに対しては、実施状況のところ「町内の保育所幼児と幼稚園を対象に」というところで一致して書いてあるのですけれども、2番目というのは私の頭がちょっとうまく……。何か関係づけて書いてあるのですか、ここは。

千葉所長

いや、分けて書いておまして、一番上は子どもたちの体力向上や発展なのですが、2番目につきましては地域で、あるいはいろいろな事業でスポーツを指導してくれる存在について

書いています。ここで言う総合型地域スポーツクラブというのは、松島町は現在マリソルス
 ーツクラブしかないものですから、そちらに特化したような内容で書かせていただいています。

瀬野尾委員 つまり、コーディネーターやボランティアを育成するという意味で、指導者の派遣や事業での
 体験指導を実施したということになるわけですね。

千葉所長 そうですね。

瀬野尾委員 そういことですね、すみません。ちょっと理解できませんでした。

櫻井次長 スポーツ指導の資格者が出向いてって指導をするのだよということです。

瀬野尾委員 それで、その指導的幅を、ボランティアなどの幅を広げていくのだということなのですね。わ
 かりました。ありがとうございます。

小池教育長 あとはありますか。時間も迫ってきています。では、これについては何かあと特にありました
 らば担当者のほうにお願いします。

瀬野尾委員 わかりやすかったです。

櫻井次長 それでは、その他になるかもしれませんが、この点検評価に関しまして、第三者からの学識経
 験者による意見ですね。これを今後、今いただいた内容を修正する部分は修正した上でごらんにな
 っていただいて、意見をいただきたいと思っております。

それで、今現在、事務局サイドとしては前年と同じく片倉誠ノ助さんをお願いをしたらどうか
 など。昨年まではお二方をお願いしていたのですが、ページ数も大分薄くなりましたので、一時
 は100ページを超えていましたけれども、今はもうごらんのページになりましたので、お一方か
 らの所見でどうでしょうかということちょっと委員の皆様方からのご意見をいただきたいと思
 います。前年までは片倉誠ノ助さんと、あと桔梗元子さんをお願いしていました。その辺につい
 て、今年度は片倉誠ノ助さんお一方で、ページ数が50ページを割っていますのでいかがでしょ
 うかということだと思うのですが、いかがでしょうか。

小池教育長 学校教育と生涯学習、それぞれに分けてやっていたのですよね。

櫻井次長 分けていたのですけれども、ボリュームがこのとおり小さくなりましたので、それで生涯学習
 の事業も学校教育のほうとまるごと学なんかも重なってきていますので、そういう意味で、もし
 よかったらと。そうじゃないと、意見が異なってしまうと、まるごと学は学校教育所管分はど
 うなのとなっていくと思いますので、調整をそこは修正するのは難しいというふうに思いますので、
 もしよろしかったらどうかと思ったのですが。

小池教育長 それは一向に構わないですよ。二人でなければいけないというわけではないので。

櫻井次長 よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）その方向でちょっと検討させてもらいたいと思
 います。ありがとうございました。

4. 閉会

〔平教育長職務代理者〕今日は長時間にわたりまして、臨時会と教科書秘密会と2つの会議が続いて大変でした。
 また、いろんな今日の点検評価ではまた根本に戻って見直さなければいけない部分もありますけれども、櫻井教
 育次長のほうから力強くその辺に取り組みたいというご返事がありましたので、我々委員としては非常に心強く
 思いました。今日は本当にありがとうございました。

この会議録の作成者は、次のとおりである。

教育課学校教育班 主査 若松 義典

上記会議録が正確であることを認め、ここに署名する。

平成28年7月7日

委員

委員